

中・下層の風向と大きく関係していること（しかし、富山県の条件が必ずしも石川県や新潟県には適合しない）、立山連峰の風上の剝離現象によって下層風が影響を受け、それが地上風の収束域や発散域を作り、降雪分布に関係していることがわかった。

今後は中・下層風の予測や雪雲の発達過程などの調査を進めて行かねばならないと考えている。

謝 辞

富山県雪情報通信システム開発業務の一環として降雪量予測手法の発展のために、本研究の機会を与えて下さった富山県水雪対策室の元室長橋本清氏、元主幹の名古屋英二氏、元副主幹の西島正博氏に対し、また、気象資料を閲覧させていただいた富山地方気象台に対し深く感謝致します。

参考文献

- 藤田敏夫, 1966: 北陸地方の里雪と山雪時における総観場の特徴, 天気, 13, 359-363.
 倉嶋厚, 1968: 上空寒気と降雪, 気象庁技術報告, 66, 52-55.
 宮沢清治, 1985: 天気図と気象の本, 国際地学協会, 68-69.
 立平良三, 1968: 雪エコーの発生・移動, 気象庁技術報

- 告, 66, 321-322.
 岡村敏夫・舟田久之, 1979: レーダエコーと降雪分布について, 天気, 26, 764-772.
 富山県, 1987: 富山県雪情報通信システム開発業務報告書, 10-23.
 富山県, 1989: 富山県雪情報通信システム開発業務報告書, 12-16.
 気象庁, 1968: 北陸豪雪調査報告, 気象庁技術報告, 66, 28-35 および 456-462.
 斉藤鍊一, 1976: 地点雨量予報, 日本気象協会, 技術情報, No. 11, 169-172.
 当舍万寿夫, 1973: 日本海における熱収支, 気象研究ノート, 115, 139-153.
 岡村敏夫, 1980: レーダエコーと降雪分布について (第2報), 天気, 27, 865-868.
 松本誠一・二宮洸三, 1969: 降雪に伴う中規模じょう乱に関する研究, 天気, 16, 294-296.
 プラントル(白倉昌明・橘藤雄監訳), 1972: 流れ学(上), コロナ社, 251-255.
 松本誠一, 1988: 新総観気象学, 東京堂出版, 61-64.
 富山県, 1986: 富山県降雪予測システムの開発業務報告書, 29-34.
 村本健一郎, 1987: 画像処理による降雪観測システム, 第12回雪害防災研究発表会梗概集, 国立防災科学技術センター雪害実験研究所, 3-4.

第6回国際ワークショップ

「大気中の流れと拡散に関する風洞・水槽モデリング」

日 時: 1993年8月25日(水)～8月27日(金)
 場 所: 阿蘇プリンスホテル(熊本県阿蘇)
 主 催: 6th Workshop 国内組織委員会,
 委員長 中村泰治(九州大学).
 6th Workshop 国際組織委員会,
 委員長 A. Robins (UK).
 共 催: EURASAP (European Association for the
 Science of Air Pollution)
 講演者: A. Robins (UK)
 R. N. Meroney (USA)
 D. Hall (UK)

N. Duijm (Netherlands)
 M. Schatzmann (Germany)
 W. H. Snyder (USA)
 他

参加費: 30,000円

詳細は

〒816 春日市春日公園6の1

九州大学応用力学研究所 6th Workshop 事務局

植田洋匡 もしくは 大屋裕二 まで

Tel: 092-573-9611 内線571, 577

Fax: 092-582-4201